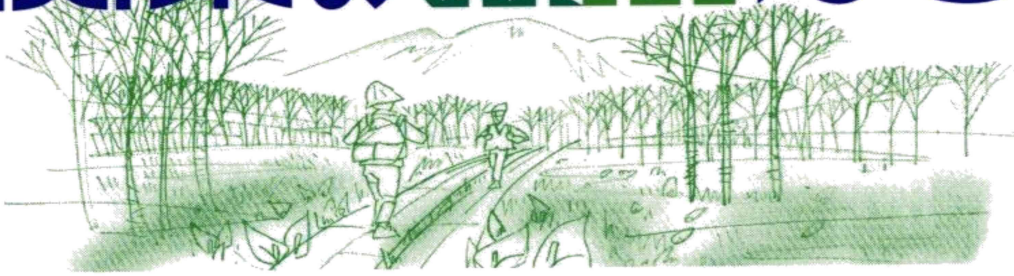


# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



## 「赤城山の紅葉」 (群馬県渋川市 南赤城山国有林324林班)

(撮影：関東森林管理局 群馬森林管理署)

- ◎ 森林総合監理士（通称：フォレスター）の育成を目指して  
技術普及課（沼田研修室）・・・2
- ◎ 国有林モニター会議を開催  
企画調整課・・・5
- ◎ 「固有種の宝庫」～兄島～  
小笠原諸島森林生態系保全センター・・・7
- ◎ 「第39回木と暮らしのふれあい展」への出展  
東京事務所・・・8
- ◎ 台風被害への対応（台風15号、19号）  
企画調整課・・・9
- ◎ 森づくり最前線  
茨城森林管理署  
日光森林管理署  
笠間森林事務所  
益子森林事務所  
首席森林官  
森林官  
高木康子・・・11  
中川摂也・・・12



# 森林総合監理士（通称…フォレスター）の育成を目指して

## 技術普及課（沼田研修室）

皆さんは、森林総合監理士（通称…フォレスター）をご存じでしょうか。

現在、本格的な利用期を迎えた人工林資源の循環利用、森林施業の低コスト化・省力化、素材生産の生産性の向上、国産材の安定供給体制の構築、新たな木材需要の創出等を総合的に進め、林業・木材産業の成長産業化を図ることが大きな課題となっていますが、これらを実現するために、森林総合監理士、森林施業プランナー、現場技術者など、様々な技術者制度があります。

このうち森林総合監理士、すなわち、フォレスターについては、森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村等への技術的支援を的確に実施できるよう、林野庁全体でその育成を進めているところ

であり、資格試験や登録などの制度があります。

関東森林管理局では、群馬県沼田市に所在する、利根沼田森林管理署庁舎内に森林総合監理士の育成を中心とした様々な研修を実施するための専用研修室（通称…沼田研修室）を設置し、フォレスター等の林業技術者の育成に取り組んでいます。

当研修室は、平成二十三年度から林野庁でスタートした准フォレスター研修（森林総合監理士の資格



現地踏査の様子  
（自分の目で見て、確かめて！）

試験制度開始以前の準備期間）に合わせて設置されました。

当初は、全国の七つの森林管理局毎に、准フォレスター研修が開始され、各地で多くの都道府県職員及び国有林職員が将来の森林総合監理士を目指して、共に学び大いに語り合い、未来の日本の森林・林業について熱のこもった研修が続けられてきました。

その後、平成二十九年からは、全国3ブロック（北海道、関東、九州）に再編されたものの研修は継続されています。

このため沼田研修室には、近畿・中国地域や四国地域など、



森林総合監理士育成研修  
グループワークの様子

遠方からも研修に参加される方がいます。

### 【森林総合監理士育成研修】

当研修の特徴は、グループワークと呼ばれる演習作業が中心となっています。

これは、研修生数人によるチームを編成し（将来のフォレスターチームをイメージ）、より実践的に地域の森林や林業を考える力を身につけるためのものです。

フォレスターの大きな役割として、3本の柱「構想の作成」・「合意形成」・「構想の実現」があります。

この役割を担うべき人材育成のための演習として「森づくりの構想演習」と「資源循環利用構想演習」という2つのプログラムを組み入れています。

「森づくりの構想演習」では、実際に森林に入り、森林の求められる機能や将来の目標林型をイメージし、適切な森林施業の方法などを考えることができるためのトレーニングを行います。

また、「資源循環利用構想演習」では、約一千ヘクタール規模の演習地を使い、広域のかつ長期的視点に立った林業構想を作成し、地域関係者との合意形成を作り上げ、そして実現に向けての道筋を、研修生チーム内のディスカッションを通じて創造するトレーニングを行います。



研修成果をグループ毎に真剣な表情で発表する様子

このように、より実践的な研修プログラムの実施により、多くの研修生から、「フォレスターに求められていることが良くイメージできた」、

「普段はあまりできない、構想作成から実現に向けてのプロセスが勉強になった」など、フォレスターへの挑戦と意欲の向上が大きく前進する研修となつていると思います。

続いて、フォレスターのさらなる技術力の向上を目指して行われている、二つの研修をご紹介します。

**【技術力維持・向上対策研修】  
(実践研修)**

一つ目は、全国7ブロックの研修拠点において、それぞれ地域の抱える課題等に応じた研修テーマを設定し、フォレスターのスキルアップをはかる研修です。

今年度は新規に、「二ホンジカ被害対策全体構想の作成」をテーマに掲げ実施します。

二ホンジカによる森林被害の増加が著しい昨今、全国各地で様々な対策が試行錯誤しながら取り組まれています。

フォレスターとしては、被害対策のみならず、今後の主伐後の確実

な再造林の推進を見据えつつ、計画的な森林整備と、地域に応じた一体的な獣害防止対策を計画・立案する技術と能力の向上が必要であることから、新たなテーマで取り組むものです。

**【林業成長産業化構想技術者育成研修】**

二つ目は、昨年度からスタートした研修で、近年進歩が著しいICT技術の森林・林業への活用手法などについて、最新の情報を学びつつ、実際のレーザー計測データや路網設計支援ソフトなどを使い、GISと連携して広域な路網計画や作業システムを検討し、循環的な木材生産の構想を描くトレーニングを行います。

二つまでの研修は、林野庁と関東森林管理局が連携しながら実施している研修です。

続いての研修は、森林総合監理士等のスキルアップに向け、関東森林管理局が独自に実施している研修です。

**【森林総合監理士等スキルアップ研修(3コース)】**

一つ目のコースは、「広葉樹林化技術を学ぶ」です。

関東ブロックにおいては、昨年度まで、「実践研修」のテーマとしても実施してきたものです。



人工林内の前生稚樹の状況説明に耳を傾ける研修生

森林・林業基本計画では、現在ある約一千万ヘクタールの人工林のうち約三百四十万ヘクタールについては、より公益的機能を重視した育成複層林等に誘導していくこととされていますが、これは、あまり生育のおもわしくない人工林などを、広葉樹などの天然更新を促しつつ、





初めての簡易貫入試験に挑戦

徐々に針広混交林や広葉樹林などへ導く技術が大変重要になります。しかし、広葉樹林などへの誘導技術は大変難しいものがあり、フォレスターとしては是非とも習得すべき技術であると考えます。

二つ目のコースは、「森林作業道指導者の育成」です。

高性能林業機械が活きる森林作業道の基本的考え方を学ぶとともに、これまでの作業路を恒久的な使用に耐え得る森林作業道へと改修するためのノウハウ等も習得します。

林内路網は、作業システムと密接不可分であり、間伐の収益性を高

め、長期にわたって森林経営に活用される重要なインフラとなります。

特に森林作業道は、森林施業プランナーが施業提案する際に細部路網として計画するものであり、この時適切な助言等ができる指導者の育成を目指すものです。

三つ目のコースは、「高性能林業機械作業システムの選択と運用」です。

フォレスターは地域の森林・林業の牽引者として、事業体等に対しても的確なアドバイスができることが求められています。

高い労働生産性を実現し、コストを低減して循環的な木材生産の基礎を築くためには、林業機械、人員配置、路網を一体として捉え、より良い組合せを選択していく必要があります。

そのためには林内路網の体系や作業システム構築の基礎的な考え方を身に付けておかなければなりません。

本研修では、高性能林業機械を活用した作業システム及び路網(森林作業道)に関する基礎的な知識を得ることにより、事業体等へ効率的な作業システムの選択等をアドバイスできるフォレスターを目指しま

す。

以上の関東森林管理局独自研修(3コース)についても、研修生チームを編成し、現地を活用したグループワークによる演習作業を中心に進めています。

このように、関東森林管理局では、未来のフォレスターを育成するための研修を継続し、地域の森林・林業の発展に寄与する人材を一人でも多く送り出したいと考えています。

なお、フォレスターの詳細については、林野庁ホームページに掲載されていますので、最初の画面の検索キーワード「森林総合監理士」を、是非一度クリックしてみてください。

※URLは

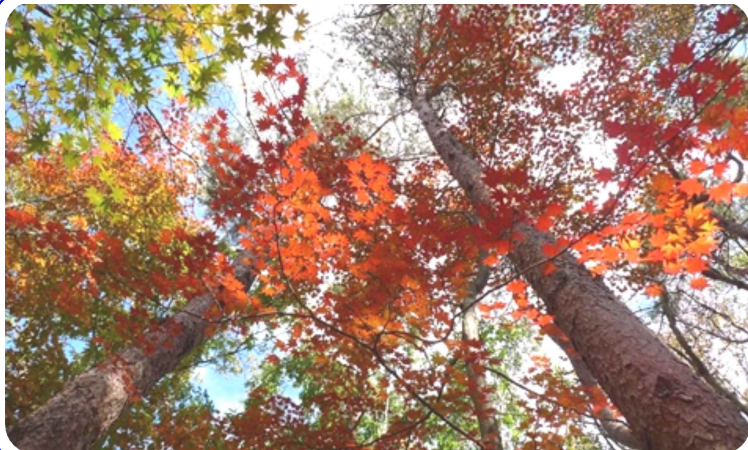
<http://www.rinyamaf.go.jp/index.html>



### 今月の表紙

## 「赤城山の紅葉」 (群馬県渋川市)

表紙の写真は、渋川市南赤城山国有林(324林班)で、昨年撮影されたものです。カラマツ林内の広葉樹が育成し、この時期は、紅色や黄色など鮮やかな紅葉を演出しています。





# 国有林モニター会議を開催

企画調整課

関東森林管理局では、国有林野事業について幅広いご意見をいただき、国有林野の管理経営に役立てていくため、一般公募による70名の方に国有林モニターを依頼しています。

国有林モニターの皆様には、広報誌や森林・林業に関する資料を毎月お送りし、アンケート調査を実施するとともに、意見交換などを行う国有林モニター会議を毎年度開催しています。

今年度は10月8日に静岡県の富士市・富士宮市（静岡森林管理署管内）で現地視察とモニター会議を開催し、12名の国有林モニターの方々にご参加いただきました。

当日は、午前中、富士山南麓の国有林で間伐実施中の人工林、高性能林業機械による造材作業のほか、植栽地におけるシカの侵入防止柵を視察していただきました。

午後は、静岡県森林組合連合会富士事業所にて、渡辺所長による木材市場の役割のご説明の後、選別機による丸太の選別状況を見学いただきました。その後、株式会社ノダ富士川事業所へ場所を移して、深澤事業所長のご案内のもと合板工場を見学いただいた後、当事業所の会議室にて、静岡森林管理署から平成30年3月に小山町で発生した土石流災害の被災状況と復旧工事を無人航空機による映像を交えて説明し、意見交換を行いました。



間伐による森林整備の概要説明



高性能林業機械による造材作業※の視察

※伐採した木を用途に応じた長さに切って丸太にすること



シカ侵入防止柵の視察

(天気が良ければ富士山が見えるはずでしたが...)



無人航空機の映像による土石流被災箇所の説明



選別機による丸太の選別状況の見学





モニター会議での意見交換

国有林モニターの皆様からは、シカ被害対策について、捕る取組、守る取組のほかにも、生息環境を管理して被害を発生しにくくする取組も進めてもらいたい。

・林業の利益を上げ、再造林を促すためにも、伐採後に林地に残される根元の部分などの利用も考えていく必要がある。

・企業と自治体等が連携した子どもたちによる植樹等の取組について、引き続き推進、アピールしてほしい。

といったご意見をいただきました。また、ご参加いただいた方に後日実施した本会議に関するアンケートでは、

### きのこ特集

## 毒きのこ御三家

各県によって違いはありますが、一般的に「**毒きのこ御三家**」と言われているのは、「ツキヨタケ」、「クサウラベニタケ」、「カキシメジ」です。

### ツキヨタケ(毒)

(キシメジ科ツキヨタケ属)

九月下旬から十月下旬にかけて主にブナの倒木や立ち枯れ木に群生します。カサは、5cmから20cm位で黒色から暗紫褐色で表面に鱗片があり、柄は、白色で短くリング(ツバ)があり、割ると中心に黒いシミがあります。ヒダは白色で柄垂生し、暗闇で緑色に発光します。

「山の木が、製品となって住宅等に使われるまでの過程に驚いた。」

「過酷な環境のもと、多くの人の手によって森林が護られていることを知ることができた。」

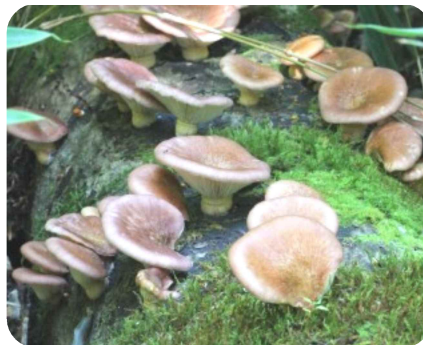
等、好評の声を多数いただきました。

いただいたご意見等は、今後の国有林野事業に活かすとともに、今後もしっかりしやすい情報発信に努めてまいります。

### クサウラベニタケ(毒)

(イッポンシメジ科イッポンシメジ属)

九月中旬から十月上旬に広葉樹林内地上に散生から群生します。カサは、5cmから8cmで灰色から灰白色、表面は平滑です。ヒダは、初め白色後にピンク色から肉色になり、柄に上生し、柄は、5cmから8cmで白色平滑で上部に粉状の鱗片があり、中空です。



ツキヨタケ

### カキシメジ(毒)

(キシメジ科キシメジ属)

九月下旬から十月下旬にかけて赤松や黒松の混じった広葉樹林内地上に群生します。

カサは、3cmから8cm位で赤褐色から茶褐色で粘性があり、ヒダは白色で古くなったり、傷ついたりすると、褐色のシミを生じ柄に湧生し、柄は、3cmから6cmで白色の地にまだらに茶褐色を帯び根元が膨らみます。



クサウラベニタケ



カキシメジ



# 「固有種の宝庫」く兄島く

小笠原諸島森林生態系保全センター



アノール柵と乾性低木林



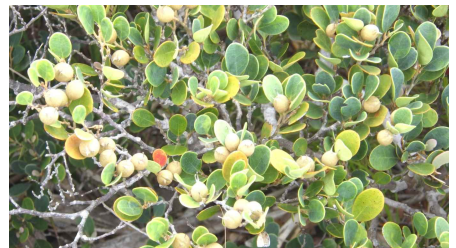
兄島に上陸（乾沢）

小笠原諸島森林生態系保全センター（以下「保全センター」という。）が活動する小笠原諸島には大小様々な島が存在しています。今回はその中のひとつ「兄島」について紹介します。

兄島は、列島の主島である父島から、北に約800m離れた場所に位置する無人島で全てが国有林です。しかし、その近さに反して人間が定住した事がほとんどありません。歴史的にもほぼ無人島のままの兄島ですが、それを構成する岩石は無人岩（むにんがん）とい

い、世界的に見ても珍しい鉱物です。また、歴史的にもほぼ無人島のままでいたために、小笠原固有の生物が、手付かずに近い環境で多数生息しています。兄島の環境は、土壌が薄く、初夏の降雨雨量が少ないという厳しいもので、植物達は乾性低木林という林を形成しています。乾性低木林は日本では珍しい植生で、構成する植物たちも小笠原固有のものが多数を占めます。一部では、土壌がさらに薄くなり、環境が一段と厳しさを増す場所があり、そこ

に現れる植生は岩上荒原植生と呼ばれます。動物達も、人間による環境の改変が少ない兄島では、本来の多種多様な陸産貝類や昆虫類などが見られます。そんな兄島ですが、希少な動植物を守るため、全域が関東森林管理局により森林生態系保護地域に指定されており、海岸部を除いて一般の方が立ち入ることは出来ません。兄島は、父島では衰退してしまった生物達の保管庫です。今は父島で見ることが出来る植物も、環境が改善した後、兄島から生息域を広げ、父島で見ることが出来るようになるかもしれません。



乾性低木林を代表する固有種 シマイスノキ

固有種の豊かな生息域である兄島ですが、問題もあります。平成25年には、有人島の固有昆虫等に甚大な被害を与えているグリーンアノールが、兄島に侵入していることがわかりました。環境省を始めとした各関係機関と協力しあい、分布域を広げないための対策を実施すると共に、その

他の外来生物についても、兄島に持ち込まないように対策を行っています。また、モクマオウ等の風で分布を広げる外来植物たちも、兄島に侵入していません。



事業説明（兄島観察会）

保全センターでは、森林生態系の修復事業として、これら外来植物の駆除を行っております。その他にも、在来昆虫の生息域を保全する取組等も行っています。兄島に残された貴重な自然。それらを守るために日々邁進していきたいと思えます。



「第39回木と暮しのふれあい展」への出展  
東京事務所



祝辞を述べる林野庁 太田次長

令和元年10月5日(土)、6日(日)の両日、「第39回木と暮しのふれあい展」(主催・東京都・(一社)東京都木材団体連合会、後援・林野庁、東京都緑化推進委員会、協賛・関東森林管理局東京事務所)が江東区の都立木場公園で開催されました。開会式は美しいアルプホルンの音とともに始まり、主催者の挨拶の後、林野庁太田次長が、木材利用拡大の呼びか

けや、森林サービス産業などの森林業の新しい可能性などにも触れた、お祝いの言葉を贈りました。なお、会場である都立木場公園のあたりは、江戸時代から、公園ができる約30年前まで、多くの材木屋や水中貯木場があった歴史があります。

この催しは、「木づかい推進月間」である10月に、「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに毎年開催され、今回、第39回目を迎える伝統のあるイベントとなっております。東京都の各木材関係団体等が出展し、木工教室や、多摩産材などを中心に国産の木材を使った製品の展示販売、大鋸(おが)を使った木挽体験、パネル展示、樹木サンプルを使った樹種当てクイズ、キャラクターショー等多彩な展示や催しが行われ、親子連れなど多くの来場者が木とのふれあいを楽しみ、大変な賑わいを見せていました。

今年も東京事務所は催しの協賛を行うとともにブースを出展し、国有林のPRに努めました。東京事務所のブースでは、国有林のある

世界自然遺産のワークブックの配布、「ツキ板」(薄くスライスしたシート状の木材)製造者の団体と協力したサンプル配布のほか、「森林クラフト体験コーナー」を設け、緑の募金にご協力頂いた参加者に、職員が一年をかけて集めた木の実、松ぼっくりや木の小枝などを使ったクラフト、木の実のリース、松ぼっくりツリー作りや、簡単なゲームのコーナーなどで行列が出来るほどの賑わいをみせました。参加者の皆さんにおかれましては、たくさんの方の緑の募金への



ご協力ありがとうございました。初日は季節外れの暑い日で2日目の午前中は雨となりましたが、昨年と同様約7万人の来場があり、大盛況なイベントとなりました。





# 台風被害への対応（台風15号、19号）

## 【台風15号】

- 9月9日5時前に強い勢力で千葉市付近に上陸。その後、9日朝には茨城県沖へ通過。
- 伊豆諸島や関東地方南部を中心に猛烈な風、猛烈な雨を観測。特に、多くの地点で記録的な暴風を観測。
- 暴風により、関東地方等で停電や倒木が相次ぎ、千葉県を中心に停電や断水など大きな被害が発生。
- 国有林においては、静岡県、千葉県を中心に、林道23箇所約1.3億円、林地荒廃20箇所約5.7億円の被害が発生。

## 【台風19号】

- 10月12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸。関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上へ通過。
- 関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨を観測し、静岡県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、茨城県、栃木県、新潟県、福島県、宮城県、岩手県に特別警報が発令。
- 記録的な大雨により、各地で河川の決壊による洪水や土砂崩れが発生し、インフラや交通にも大きな影響。
- 国有林においては、管内のほぼ全域にわたり林道284箇所約1.9億円、林地荒廃61箇所約17億円、治山施設16箇所約2億円の被害が発生（10月28日時点、現在も調査中）。

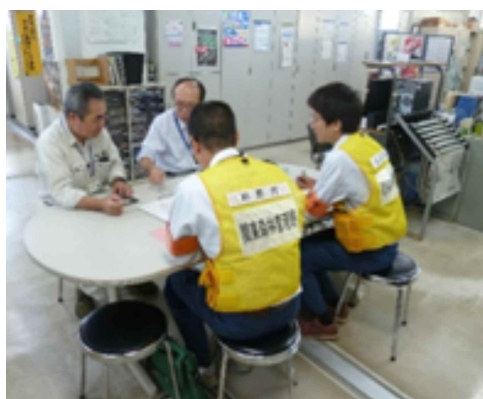


国有林野内の風倒木（君津市）



民有林の風倒木（南房総市）

- 情報収集や連絡調整等のため、県や市町村、県の災害対策本部等に職員を派遣。
- 【台風15号】のべ112人日の職員を派遣 【台風19号】のべ332人日の職員を派遣（10月28日現在）
- 県や市町村と被害情報を共有するとともに、要請に応じて合同の現地調査についても実施。



県出先機関を訪問しての情報収集



県職員との合同調査

- 関東森林管理局では、必要に応じて、山地災害等の発生後に速やかにヘリコプターによる林地荒廃の被害状況の調査を実施。
- 併せて、地方自治体からの要望に基づき、飛行ルート調整、都県・市町村職員の同乗、撮影した画像データの都県・市町村への共有も実施。
- 台風15号については、9月19日に千葉県南部、静岡県伊豆地方を調査。上空からの目視の結果、広範囲に風倒木が発生するとともに、小規模な崩壊が確認されたが、大規模な山腹崩壊等は発生していなかった。



○ 台風19号については、これまで東京都、神奈川県、埼玉県、群馬県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、静岡県を調査。上空からの目視の結果、森林の大規模な山腹崩壊等は発生していなかったが、小規模な崩壊が確認された。



調査を行う江藤農林水産大臣



調査を行う加藤農林水産副大臣



伊豆市・風倒木(国有林)

○ 県及び市町村からの要請に基づき、国有林職員がドローンにより民有林の林地、林道等の被害状況調査を支援し、撮影した写真、データ等を県・市町村に提供。

○ 特に、千葉県においては、管内の森林管理署からオペレータを派遣し、千葉県と合同で調査



ドローンによる民有林治山の現場の調査

○ 台風15号の際には風倒木等による停電が多数発生したことから、林野庁本庁とともに、関東森林管理局、千葉森林管理事務所、東京事務所から、倒木処理等の要望調整等のため、千葉県各地に設置された自衛隊・東京電力協同調整所等に職員約63名を派遣

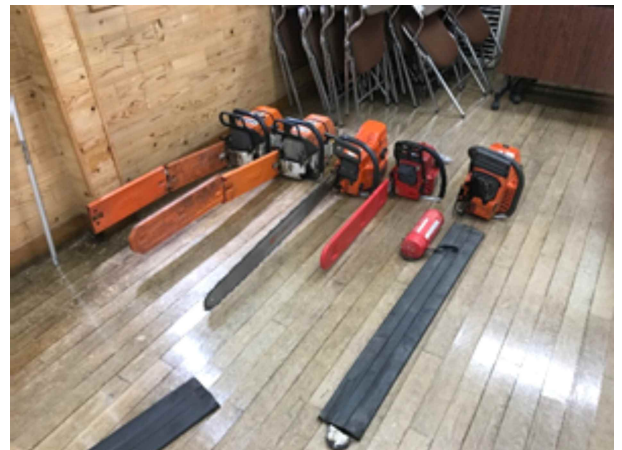
○ 千葉県災害対策本部や自衛隊の要請に基づき、前橋国有林森林整備協会及び東京地方国有林造林生産業協議会と調整の上、倒木処理に必要な重機を保有している林業事業体の情報を提供するとともに、大径木処理のために、林業事業体が保有する大型チェーンソーの自衛隊への貸出しをマッチング。

○ 風倒木に係る仮置場として、国有林の旧貯木場等の候補箇所を記載した位置図を、県災害対策本部や市町村、自衛隊等に提供。

※詳細は、次号にて掲載予定です。



東電事業所での打合せ



林業事業体が保有する大型チェーンソー



# 森づくり最前線

茨城森林管理署 笠間森林事務所  
首席森林官 高木 康子



笠間稲荷神社

当森林事務所が所在する笠間市は、茨城県の県央地域に位置し、北西部は八溝山系が連なる丘陵地帯で、西部から南部にかけては筑波山から続く筑波山塊となっており、吾国山、難台山、鐘転山が連なっています。古くは笠間城（続日本100名城）の城下町、笠間稲荷神社の門前町として、近年では陶芸の町、芸術の町として知られています。また、周辺の名所としては、火防信仰で知られる愛宕山があります。



笠間城跡

担当する国有林は、約3,6千ヘクタールで、笠間市、桜川市、石岡市、かすみがうら市に分布しています。その一部は、笠間県立自然公園、吾国愛宕県立自然公園、水郷筑波国定公園に指定されており、山歩きなど、年間を通じて地元住民や観光客に親しまれ、国有林においても森林ふれあいイベントや法人による森林整備活動も行われています。



国有林の土石販売箇所



森林ふれあいイベントの様子（石岡市内）

また、当森林事務所と同じ庁舎にある関東森林管理局森林技術・支援センターが、「長期育成環境施業試験」、「立地条件に応じた風致施業試験」及び「若齢の針葉樹人工造林地に混生する広葉樹の育成試験」を課題とした試験地を設定しており、当該センターとともに森林環境の保全と森林資源の循環利用を実現するための施業技術の開発に取り組んでいます。



このような取り組み等を通じて、健全な森林を維持し、次世代に引き継ぐ山づくりをしていきたいと考えています。



# 森づくり最前線

日光森林管理署 益子森林事務所  
森林官 中川 撰也



益子町の高館山周辺

益子町は栃木県南東部に位置し、「益子焼」として知られるように窯元や陶芸店が多く、春と秋には陶器市が開かれています。益子森林事務所も陶芸店が多くある中心地の近くにあります。

管轄する国有林は、東は芳賀郡茂木町と南は茨城県に境を接する約1,300ha(人工林約65%、天然林約35%)です。

管内の最高峰である雨巻山(533.3m)は、栃木百名山に選ばれた益子町を代表する山でもあります。

春から夏には花々を、晩秋には落葉した木の間越しに遠くまで眺望が得られ、冬には初心者向きの雪山歩きを楽し



植付箇所と周辺の国有林

むことができ、年間を通して観光客・地元の方に親しまれています。

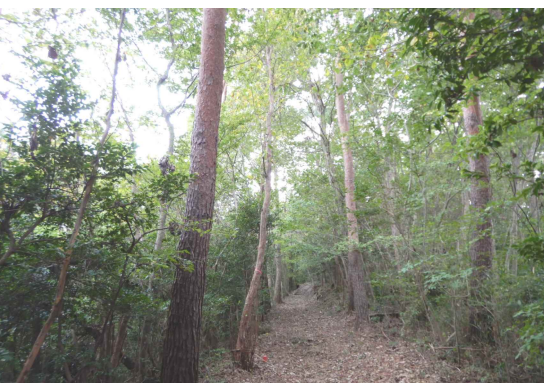
今年度は、5年間の施業実施計画の初年度であり、主な事業は、新植(地拵・植付・下刈)と、これから始まる人工林(スギ・ヒノキ)の間伐で、約1,400㎡の間伐による木材の生産を予定しています。

今年度、植付したスギ苗木の一部で野ウサギに梢をかじられる食害がありました。その他目立った獣害被害はみられません。

施業実施計画期間で間伐が必要な比較的若い林分がある一方で、現在の計画期間で伐



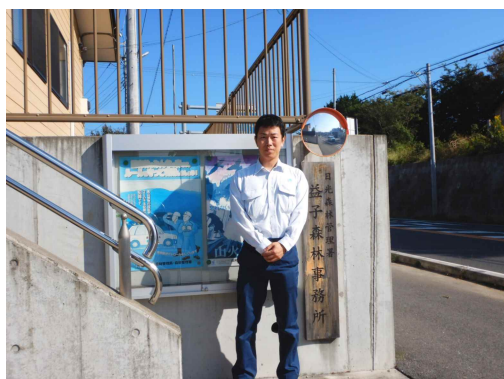
益子の森 (展望台から見た高館山)



高館国有林内の遊歩道

採計画がない106年生と36年生のヒノキの複層林の林分もあります。

106年生ということとは、大正の時代に植えられ、今まで大切に守られてきたのだと思います。



事務所の前にて

今後どのように施業していくか、責任の重さを感じつつ、そういった山を近くで見られるのも森林官としての醍醐味です。

森林官として初めての勤務地で、4月に着任し早くも7か月を過ぎたところです。

まだまだ未熟ではありますが、皆様からの助言をいただきながら今後のよりよい健全な森作りに日々業務に励んでいきたいです。

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027) 20-1158  
FAX (027) 230-1393